

## 発刊にあたり

(財)須坂市身体障害者福祉協会

理事長 山 岸 守

在宅障害者デイサービス事業（後に身体障害者デイサービス事業に改称）として実施された創作活動、軽作業、日常生活訓練等の事業は、現在の福祉会館が完成された昭和六十一年に、当時社会福祉協議会に事務所を置いた関係から市の委託を受け、同年十月から開始されました。開始当初は十二のサークルをもつて自立と生きがいの目的のもと、活発な活動が展開されていたと聞きます。

平成六年、社会福祉協議会が現在地（旧須坂電報電話局）に事務所を移転したことに伴って、これまで社会福祉協議会が受託していた身体障害者デイサービス事業を当協会へ委託替えをしてほしい旨、市当局へ申し入れ、陳情を行なうなどして、協会の委託体制が整備される条件のもと、平成八年度より当協会が引き受けることになりました。以降、この事業は協会並びに協会の大きな励みとなり、協会の充実発展に大きく寄与いたしました。平成十三年度の実施状況をみると、十四サークル、登録人員は二百十八人、年間の利用人員は延べ四千四百八十五人であったと記録されており、この事業に対する会員の熱意と期待は大きかったことが知れます。平成十五年になって国の制度改正があり、経費支援制度の導入により障害者デイサービス事

業は、実施施設が限定されたこと、事業自体の要件や実施回数、人員などに基準が設けられたことなどが問題となり、身障協会で実施していくことは難しいと判断され、十七年間続いた障害者デイサービス事業は止むなく集結するのであります。

協会では行政に陳情するなどして、従来どおりの事業が継続できるよう要望したが、当時の財政事情もあって、市の補助要綱により従来の一・五分の一という補助額になったのであります。

この補助額は、協会にとって財政的危機に陥った事態となり、組織的に大きな転換を求められることになりました。

協会では継続を望む会員の要望にこたえて、参加者に自己負担をしてもらい、不足分は身障協会が助成するといった措置を取り、実質的には事業の継続を決断したわけであります。新たに「はつらつ生きがい事業」と改名して出発しましたが、活動は従来の子半数以下、参加者数も激減したのであります。

川柳班は、平成六年、当時の北澤理事長さんの薦めで設立されたと五十年誌に関係者が記されております。今年で創立十五周年を迎えることになりましたが、周年記念としてここに「ぬくもり川柳作品集」の発刊となりましたことは、大変うれしく心からお祝いを申し上げる次第でございます。

支援費制度の導入という困難な時期を乗り越え、また、歴代二人の講師先生には、入院加療のため辞退されるといふ不運にもめげず、川柳班の仲間が互いに励まし合い今日まですばらし

い活動を続けてまいりました。

会報墨坂、川柳班日より、須坂新聞紙などに発表され、さらには全国県下国民文芸祭の川柳大会にも投句されていると聞いており、その活動は協会の誇りであります。

川柳は、口語を用い、人生の機微や世相・風俗をこっけいに、また、風刺的に描写するものと辞典などにありますが、社会の動向や自然観察、豊富な知識と経験があつてこそ、一句が詠みあがるのではないかと感心しております。

特にユーモアは、その人の生き方、性格、資質みたいなものにかかっているから、書いてうまく行くとうれしい、と詩人谷川俊太郎さんは語っておられます。川柳班の方々には、川柳を通じて豊かな人生を歩まれますことを願うものであります。

なお、このたび川柳班は作品集を刊行されましたが、はつらつ生きがい事業の各班において長年にわたりご指導をいただいております講師の先生方に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。と存じます。

終わりに、川柳班の愈々のご発展と今後のご精進を願い、なお、はつらつ生きがい事業が身障協会会員の拠り場所であつて欲しいことを念じまして、お祝いいたします。

平成二十二年三月

財団法人須坂市身体障害者福祉協会が市から委託を受けて行う身体障害者デイサービス事業（後にはつらつ生きがい事業に名称変更）の中の川柳班として愛称「ぬくもり川柳」が平成六年四月に会員十五名を持つて発足し現在に至りました。

川柳は庶民に相応しい短文字であり、題材自由構想、主に時事、温情、ユーモア、楽天的、その他の短文字で有り、紙と鉛筆で事足りる。内容は口を開けず含み笑い、即ちやられたと感じさせれば秀作と聞いております。そこが奥深く難しい所と言えますが、お互い加齢となり心の蟠り払拭、認知症防止になれば幸いです。互選することにより互いに励み、例会後の世間情報之余韻も川柳の余得かと思えます。

講師柳曆、現岩魚川柳会、主幹、西沢隼人氏号平凡子、県下柳壇の名士、テキストにより基本、添削等、遂次、上達して参りましたところ惜しくも、一年二ヶ月で病床に伏せられ退任、後任講師就任まで、山上邦茂が講師代行十ヶ月後、講師、永田公雄氏号きみお、先生をお迎え、先生は臥竜川柳会主幹、県下川柳連盟、上部役職の大先生、平成八年四月〜平成十三年一月、病气手術後惜しくも退任、就任期間四年十ヶ月でした。後任仲々無く、平成十三年二月〜同三月

迄二ヶ月間山上が講師代行後、北澤理事長より講師に推挙され平成十三年四月〜十七年三月まで四ヶ年講師を勤め都合上退任、後任に平成十七年四月講師北澤二郎氏（号笑楽）就任される、北澤先生は、長野市、川柳和楽会、吉田伍堂先生の門下で永く川柳道を究められた先生、体不調、平成二十一年九月退任、期間四ヶ年半、今後ぬくもり川柳会の顧問として御指導を賜われる、後任に前任講師の北澤先生の推挙賜り山上邦茂が僭越ですが講師をお受け致しました。よろしく御指導をお願いします。

平成二十二年三月

## もくじ

発刊にあたって

ごあいさつ

一花 (浅沼 春吉)	9
さとし (浦 哲至)	17
伊佐夫 (兼田 勲)	31
笑 楽 (北澤 二郎)	47
険 山 (小柳 袈裟男)	61
凡 句良 (刺刀 隆)	77
錦 太 (竹前 錦雄)	89
明 香 (塚原 明子)	97

きみお (永田 公男) | 113

天真 (永田 穰吉) | 121

平凡子 (西澤 隼人) | 129

凡太 (松澤豊太郎) | 137

小菊 (三井きく子) | 151

雲海 (山上 邦茂) | 169

と金 (渡辺 元二) | 183

身体障害者デイサービス事業川柳班事業記録 | 197

あとがき



# 浅沼一花作品集



浅沼春吉

わからない勉強へも母やかましい  
不況風関係ないと娘はデート

身障はこの世に強く腹を決め

川上村レタスが嫁さん呼んでくる

雨待つが明日は旅行の晴れ願う

猫の恋寢室広く妻の留守

久しぶり戦友いまだ空元気

般若湯札所めぐりが頼もしく

美味しいといわれて子等はまたカレー  
五味池のつっじに埋もれジンスカン  
夏雲もひあがりそうな蝉志ぐれ

幽霊の面影探す関ヶ原

熱帯夜布団の幅が狭くなり

夕立も言い訳程度で夏も過ぎ

鳴く虫の合唱聞いて月の影

テレビ見る子等を呼んでも生返事

早起きで寝込みを襲うイナゴ取り

手頃だと思つた彼女今は妻

手頃だとマレットゴルフに誘われる

手頃なる友見つけては孫よく遊ぶ

紅葉に負けじと藍も昇竜湖

落ち葉焚きからかうように散る落ち葉

友達、妊娠、結婚と父迷い

味方だか敵だか分からぬ中東戦

青春の夢は片恋なつかしい

忘れさせることが大事な破れ恋

友の訃へまた想いでが重くなり

初雪に炬燵で一句背は丸く

医者通いしながら健康食進む

年の暮れあつという間の七十年

年始めスキートの旅で家は留守

言い訳に門松飾る若き代

行く年の跡振り返り日記書く

元旦の決意ことしも無事一番

新年会新しき顔消えた顔

地震報吾子の電話で眠られる

雪の夜炬燵で聞くや夜鳴きそば

年男美人の方へばかり投げ

路を採る手先にぬるむ小川かな

市議選も終わり小鳥の声聞こえ

まめでいる笑顔に来るぞ福の神

まめでいる証拠とかじる親のすね

泥縄もなうことできぬ年の波

綿帽子かぶって耐える庭の松

福寿草雪の下にて春の夢

カンカンと叩いて落とす軒ツララ

老妻のひるね小さく口を空け

雛祭りママゴト遊びの孫の声

孫の酌下戸でも義理で式杯のみ

春の陽が当る縁側お茶の友

初恋を堂々さわぐクラス会

齒の抜けた彼女にだぶる恋の詩

年老いて幸福願う捨てた恋

苦節十年盲目の母のしわふかい

臨終の母の涙に泣かされる

千仏洞世界に散った佛様

# 浦さとし作品集



浦  
哲  
至

お正月歳をとるから笑えない  
葉桜に衣変えればこの静けさ

宝くじ当たれば青くなる

偽ればその果てが分かる年齢としなのに

省エネと防寒服を着て頑張るか

薬づけの妻元気出して託老所

次々と告発なのかバレタ年

違うぞと敬老の日を拒みたい

十年若返る術日々探る

盆踊りで逢ったあの人もいいお年

お盆には小さい村も賑やかに

今度こそ農相の椅子はでもこけた

限界か皺を隠のあきらめた

音もなく迫ることもないこの歳で

ドレミハの音の如くに起きる偽装

子供にもよくない詫びる大人の図

記憶にないそんな発言もう古い  
何事もすっきりしないこの浮世

トントンと与党ペースでいいのかな

朝からのお神酒至福の正月

節句の日孫の計算特に甘え

背比べした兄はもう八十

年をとり肥やし次第で芽が出るかも

渋滞の高速我慢がよくできる

じっと見る蛇の視線が怖くなる

多数決その影で泣く人もいる

鶯は出番を待つのか春はまだ

北風が止まらず鶯縮こまる

美人顔残像消えず目に浮かぶ

熊お前向かってくるな餌あげる

鯛めしを炊き祝いごととして見たい

雪なしの冬泣き笑い二つの顔

節分の豆齢だけ食べ腹痛い

ペコちゃん顔を潰したと泣いている

今年こそ若返り方見つけたい

好きだけど鮭の値段寄せ付けず

鮭やめ鰹のたたきでご満悦

高齢化柿も採れずに鳥の餌

塩分を意識しながら梅一つ

高熱費稼ぐつもりで厚着する

イナゴ食べ精力つける爺ちゃん  
晩酌をやめると妻が不審顔

政治家は耳が悪いか馬耳東風

お馬さんカケツコをして金儲け

高飛び得意な蚤のみは海外か

出好き妻腰痛忘れいそいそと

扇風機引退近しありがとう

猛暑水とビールに救われる

この国は汚れ落としも大仕事

一句メモ雲隠れして大慌て

この頃は老いて益々自信なし

お中元絆つなげる役果たし

リハビリに制限をする鬼政府

フリーターは不景気が生んだ合言葉

柏餅食べ餓鬼の頃思い出す

株ゲームもっていたのは落とし穴

花も実も体を癒すお梅様

少しずつ梅干化する我が身

パソコンが我をしばしば謎に包む

てんこ盛り雪沢山の空睨む

餅の如く粘って行くぞうくる年も

やきもちを焼く人も無く気が楽だ

婆ちゃん口紅塗って若返る

忍びよる老いを気持ちで跳ね返す

待イスで病むもの仲間意気が合い

結んでる帯ほどいてる甘い夢

弱いのか結びの縁が切れていく

マツタケが値算誇示して買う気削ぐ

村祭り爺さん妙に落着かず

笛太鼓里の風景惚ばせる

老い仲間日向ぼっこで愚痴話

勝ち負けの差がありすぎた総選挙

咲かせたい柳句がうまくなる花を

ケシの花毒と知りつつ見つめている

恋の花肥やし悪いか微笑まず

公約を横文字使いすまし顔

育みを怠けていると落ちていく

談合は不倫だけでも止められない

寒い中小春日和は宝物

握手したその瞬間もう決まり

メニエーマニフェストは美味しいか  
民営化赤いポストも引退か

こけるなと肥やしを蒔いて答え待つ

榛名湖の水辺の宿で酔いしれた

若い時の極楽トンボ今響く

お詫び事ばかり仏もうんざり

辛い事あれば神仏恨んでる

ビジネスとうかうかすれば乗っ取られ

腹立つが此処が我慢と合わせてる

寒い中落味噌食べてホツとする

若殿は酒と女でころげ落ち

春雪は見る見る溶けて気が弾む

春がきて出会い別れの場面あり

喜んで結ばれたのにもう喧嘩

我が村は合併話も起きません

大雪に勝てと車を走らせる

おらが村お隣の市と縁づかず

反則をしたか雀が喧嘩する

朝からのお神酒至福のお正月

春日和猫縁側で眠りこけ

春がきてお化粧にもちと手間をかけ

ライブドア扉開けすぎ尻尾出す

# 兼田伊佐夫作品集



兼  
田  
勲

バス時間時計気になる生ビール

車窓から顔を撫でられ初夏の風

冬至の日ゆず湯につかり暮を待つ

大空にどこに行くのか飛行雲

小旅行家族で誘う連休日

風りんの音が変わった秋の音

敵味方マレットゴルフのいい仲間

来年の景気気になる年金族

新顔が出て市議選派手になり

天災は平成時代に大あばれ

なまずにも豆ぶつきたい節分会

金メダル輝く光汗のあと

災害は待ってたようにまた起きる

値を下げて予算合わす不動産

車社会0157を乗せてくる

恵比須顔何か良い事思い出し

金杯に酒酌み交わし光輝みる

慌て者石車にのり転倒し

長旅に別れを惜しむ渡り鳥

金がいい骨身燃やす選手たち

ないしよ話だれかに障子はずされる

特攻隊十七才の少年達

和紙を切り地鎮祭で無事いのる

開花時期土俵の花が散り惜しむ

運が悪いあわてた総理が言い直し

ユウユウの初恋花嫁さがしてる

世の中を平気で暮らす難しさ

平均より生きる人生健康に

追い出したい不況鬼人を節分に

年男人生峠七合目

軽く見た金力利かないセクハラは

近くて遠い隣国テポドン2

合格発表桜咲かすか受験生

ヘリコプター中身を運ぶ移植陣

黙々と働いていてリストラに

雪達磨一晚たてば背伸びする

世紀末跳ねて不況乗り越えて

二日酔い悪夢を忘れ忘年会

背中合わせ欲望と不況去年と今年

最悪だ今年は毒でくれてゆく

宇宙船ど真中でシヤボン玉

子供捨て人情捨てて車取る

マレットでリハビリかねて運動し

用件を伝え忘れて一大事

記念品もらって老人メンバー入り

消費税政党間で卒遊び

赤ちようちんひかれて寄込むコップ酒

不景気の悪金融が鬼となる

不況風イラク戦争捲き込まれ

デイサービス支援制度で台風の目

脱北者死線越えられ生き還る

節分で鬼が可愛いと二、三粒

大相撲お株取られて国際化

成人式晴着姿まつ両親が

羊さん札食べないで景気つけ

古狸居座れるか県議選

パソコン 県職 汚職 秋風 吹く

秋晴と白鳥が似合う菊花展

追い出して負犬になる県議団

墓掃除御無沙汰してて草繁茂

花見酒呑んで帰りに美女を見る

辻本氏投げたボールが足元に

福袋当てた初夢ギヤル寝言

人生は締められつつ共え投げ

脱税を飲んでサッチー下痢をする

柿の実を奇襲攻撃むくどり隊

台風にも何時も悩まされこの季節

風鈴が猛暑のなかで泣いている

果樹園で茶会楽しく農繁期

訃報聞き胸打たれつつ老を知る

花見会金魚すくい初夏感じ

銀行の脳波ペイオフ貯蓄消し

ペイオフで老後の安心ブチこわし

海岸は尻を比べる潮干狩

春彼岸妻を憶いて花を供え

解体で宝物出るか楽しみに

今日も又美人になりたい付けまつ毛

鏡餅食べて気分は春を待つ

黄昏に喜びて帰る白鳥五千羽

冬空は綺麗に見える月と星

秋晴れにマレット大会飛行雲

体育祭応援隊で老い感じ

異常気象夕立欲しい大ジョッキ

御祭礼花笠つけて仮装する

金星が流星に変える政治家だ

サッカーボール蹴られて生きる金星に

内閣の背骨折られて宙に浮く

新入生赤い鞆に希望詰め

パソコンが猛威をふるい毛筆減る

年新たな期待大きく神酒呑む

人生の半分忘れる誕生日

変動期月の半分欠けそうだ

実り秋外務官僚もぎとりたい

行水は子供に似合う風物詩

マレット族梅雨の晴間を恋しが

竹の子が地面を割ると命取り

なまず起き大暴れして地割れする

大津波荒野と化して反省し

潮干狩腰痛忘れて貝を掘る

建設費化けて年金悲鳴あげ

冬將軍寒中見舞いやって来た

そばに居て無くして思ふ一人旅

農作物大不作合せ盗難劇

夢の中思い出ばかり見えて来る

付髭を付けて人相替えて見る

節分に貧乏神が追い出され

与野党年金大災燃え上る

罇狩鈴成り見事旅の味

消費税合体してまやかしか

年始会コンパニオンに吞まれてる

岩窟王定年制に泣かされる

上等米各地盗難汗何処

中元の中味気になる来客で

車椅子乗って情けが身にしみる

鯉のぼり孫の若さを貰いたい

公約が口約に代わる選挙後は

老体が蛇口悪く出が渋る

梅林に鶯嬢と春霞

餌がなく熊も親子で別居する

酒の友鯛を肴に誕生日

# 北澤笑楽作品集



北澤二郎

まけさせて買わされちゃった骨董品

開発を待つ休耕田の草の丈

手頃なるママ居て手頃によく通い

新党もストも吹き飛ぶ大震災

ゼネコンへよく効いた口黙秘権

力は善金は力と賄賂とり

救世と唱えサリンを撒き散らす

銀行で涼んでいれば行員来る

助人の格好いゝこと旅芝居

掘り出しものやっぱり駄目か鑑定団

秘薬ともサリンともなる噫宗教

十円の賽銭願いも遠慮がち

初入閣どうにも頬が崩れちやう

新弟子の夢は腹から膨らませ

貰うほど顔が利かずに身は奇麗

金効かせ顔を効かせて贈収賄

満員車ぬくもり伝わりて歳忘れ

牛の背で笛吹いて行こう我が七十路

エルニーニョ見事に当てた虫の感

二号ではないのよ私はパートナー

地味だけど手塩にかけた花の良さ

散りぎわのわるい花に名花なし

泡食し寝てアフガン戦のテレビ見ている

ペイオフに密かに悩むおばあちゃん

コンロ無し炭無し秋刀魚味が出ず  
審判のいない政治は泥仕合

三度目の式で誓も慣れたもの

蕎麦打つ手かあちゃん達の村起し

帯キューと締めて色香も包み込む

大臣が食べて保証する食不安

試し切りしたい大国の新兵器

レフリーのいない政治で泥試合

捕まえたフセイに鬼に牙が無い  
雛壇に飾られている義理と見栄  
長寿など知らず桜の舞いて散る  
自衛隊流れ着く先テロが待つ  
軍靴行く人道支援と言って行く  
改革の額傾いたままでいる  
御仏の恵はお寺が先に受け  
大ボウを上手に吹いてさあ選挙

新成人未だお年玉貰う気か

アルバイト勉強している暇が無い

バラバラも政治家言えば三位一体

出番など無い方が良い自衛隊

ちよっぴりと清を加えて併せ呑む

自由の種イラクの砂漠に砲で蒔き

蒔かぬのに勝手にのさばる外来種

銭かけてブレーキ効かない子を育て

育毛剤使わぬとこだけよく伸びる

二羽病んで二万五千の鶏埋まる

民営化権力利欲の火花舞う

子の肥満気にしない母のダイエット

郵政で政治家派手な果たし合い

騙されてだまして咲かせた恋の花

伝統の祭りの振り付けじじ出番

紅なくも色香満ちてる若き肌

側室と言ってほしいと二号言い

結びめがどうにも解けない腐れ縁

団結に縁無くパートにフリーター

それ怖い気分とムードの浮動票

低迷の景気我が家に居候

呆け仲間増えて安堵の同級会

人の知恵いつでも悪が付く危険

大卒の後もまだある親の脛

ロボットにチエックされている人のミス

北鮮の氷は厚く春遠し

賞味期限切れて女は強くなり

生かされている命です薬漬け

上役を値踏みして買うお中元

門松も偽装ばかりと神あきれ

借り上手他人の金で良く太り

鑑定に出すんじゃないかった自慢品

当てにせぬ言いつゝ買つてゐる宝くじ

年寄りと女が元気で世は平和

汚染米心も汚れて売まくり

待ち合い室元氣な年寄にぎやかし

年賀状だけがとりもつ古い縁

歌手と握手かあちゃんなかなか離さない

反対が半分あつて民主々義

年寄りの汗が棚田で稔っている

本心を言って政治家転げ落ち

年賀状達筆家の字が躍っている

リストラで追われた不景気こちら向く

ミサイルの影に怯えた誤発表

格好な集票武器か給付金

言い訳がまだまとまらぬ帰り道

総選挙ご馳走メニエーのマニフェスト

悪銭の成金あの世が怖くなり

イチローが打った打たぬと日々ニュース  
神仏も被害者となった大地震

人ちがいで顔染めし人美しくい

日食で昼間の月が意地を見せ

政治でもお笑いタレント稼いでいる

武士道を知らない異国のゲリラ戦

ご利やくを振り撒き祭り盛り上げる

長梅雨で不精男にカビが生え

菖蒲風呂ユニットバスで忘れられ

種蒔ど一向芽が出ぬ恋の花

ジャパンの胃世界の鮪追い廻す

老いのデートひげ剃ることを忘れたり

拍手を大きく打ってさあ選挙

英雄は大勢殺した将が成り

発芽してじきに萎れる老いの恋

恐妻の課長職場で発破かけ

# 小柳 險山 作品集



小柳 袈裟男

鯛料理縁起一番味二番

春浅し枯野に群れる雀たち

観漁船窓に迫れり鯛の群れ

鯛の味洋海養殖大差なし

三浦表敬訪問歓迎鯛の総料理

飲酒運転鶺鴒の目鷹の目警察の目

珍しや近代のとんび鷹の子生む

我おろか馬鹿と言われど腹立たず

馬鹿呼ばわり自分の馬鹿を棚に上げ

蚤虱知らぬが仏戦後生れ

蚤の夫婦珍しくなし国際結婚

長虫も種類によって良薬なり

秋深し昔鈴虫今テレビ

柿赤し医者蒼くなり秋深し

柿熟れて山に食い入る鐘の音

諏訪大社御柱祭七年毎の寅と申

二に四し六む九く十さ一む小らいの月外ななの七月大ななの月

海無し県外国魚で食卓満つ

海軍基地思い出深い油壺

お中元ビール変じて夏肌着

老松の枝振り見事歴史見る

正月去り試験地獄が待っている

今世紀米と機器有り餅を買う

休日に祭り振替え崇る雨

雷鳴に夕方きびしへそ臍おさえ

海無し県雨無く猛暑身にこたえ

雨台風ダムが湛えて街護り

村芝居母の形見の蛇ノ目傘

年老いてゴールドウィーク留守居役

寒明けど懐さむし世は不況

雪降って何にも出来ずの炬燵番

失業の家計締めども又赤字

析の実も観光土産の菓子となり  
夏バテや秋風と共に去りにけり  
新盆や仏とともに請求書つけ来たる  
非美人も美人も裸みなおなじ  
生か死か地獄極楽紙一重  
減反の割当に泣く米どころ  
健康感謝一入うまし夕餉の茶  
勝敗は努力五輪に参加意義

書くはペン計はソロバン我老いぬ

年賀状臉に浮かぶ戦友の顔

老人会裸の付き合い温泉行き

秋茄子は嫁に食わすな古人云ふ

世界議会テロ問題に引き廻され

地球温暖化気温上昇株下落

甲子園校歌ひびかせ勝進む

景氣回復願ひ春祭り花火大会

参院選政党よりも先づ人物

此風と夫婦けんかは夜おだむ

金婚や苦薬と共に五十年

何故悪い？靖国神社公式参拝

休耕を強行し政府米輸入

百聞は一見にしかず保津川下り

パイオフでダンス貯金に踏み切った

信濃川河岸に惑う鮭の群

春秋の彼岸の間農夫の昼寝

雪解けて川幅広げる千曲川

梅雨あがり軒にわびしき雨合羽

村八分三十五年経て区役員

須坂市も源をたどれば一万石

老夫婦対話少して小言増す

祝日の国旗掲揚良否問う

外国産さぬき小麦でうどん化け

結婚式すでに結ばれている二人

老いの身にひしひし迫る不況風

年金減り増える介護保険料

妻小言聞く耳持たず神に問う

わいせつは敵我が身守れよミニスカート

性犯罪復活望む花柳会

贅沢と栄養失調紙一重

靖国で頑張れ首相遺族共

心して日毎つとめよ安全運転

喜寿迎え煙草六十余年止められず

花火大会戦時の空爆思い出す

花火大会年々変わる色かたち

減反田米麦そばとカラフルに

談合入札昔常識今悪事

市議選挙開けてびっくり玉手箱

どんど焼き櫛の枝に花ダンゴ

早々に達者の証年賀状

世は進めど馬鹿につける薬なし

金のため県知事さんの首も飛ぶ

蚤虱戦後大敵DJD

この世より酒を無くせば事故も減る

今の世は地震雷火事子供

浅学や無袋のカンガルーに驚きぬ

諏訪地方御柱祭の年婚礼無しや

ジャワ地震旅の思い出島に飛ぶ  
入学を祝う親子に笑顔あり

老人病堪えて忍べば骨と皮

年越しソバ食し終われば除夜の鐘

年の瀬は何か気忙し落ち着かぬ

小坂文相やったぞさすが教育界

靖国参拝何悪い我特攻生き残り

少子対策二人目からは国で見る

愛知博多く見るには時と金

合併せど歴史文化を守りたい

戦友中元友愛変らず海苔ワカメ

入梅や一雨ごとに梅果太る

柏餅縁起一香味二香

春告げる花の便りもチーラホラ

春迎え山里悩ます杉花粉

卒業式校門出でて忍び泣き

北信濃春は名ばかり雪五尺

残雪に日向ぼっここの路の董とう

寒の入り日増しに伸びる軒ツララ

傘寿過ぎ寒さに震える若夫婦

結婚せど苦勞しっぱなしあの世行き

祭日まつりびを土日にかえて雨たたり

花咲けど未いまだ実らぬ若夫婦

長き冬耐えて花咲く福寿草

子は宝育つ喜び老いを忘るる

産むは易し育て難くて資本もとかかる

雨乞いぬ空しく枯れる野菜苗

年男神官装束豆をまく

子種尽き精根尽きて生きるのみ

選挙終え静けさ戻る田舎町

# 刺刀凡句良作品集



刺  
刀  
隆

梅雨寒にデンデン虫も首すくめ

春霞見て涙ぐむ花粉症

老い背負う新成人に重い雪

大雪が冷やす温暖化の地球

新市町覚えるそばから誕生す

宝くじ買って夢見る仏顔

頭からなかなか産まれぬ我が川柳

祝い酒飲んで笑顔も紅白に

民営化反対署名は郵便で

合併で地理の教科書追いつかず

ささやかな所得まきあげ無駄遣い

官僚が栄えるためのゴールドプラン

不景気を尻目に栄えるお役人

老い知らぬワイロ行政今むかし

願かけも賽銭次第このごろは

七五三親の願いは子に重く

紅葉は一足先に家計簿へ

泣き疲れ赤ちゃんスヤスヤ母の笑み

鈴虫に疲れないかと聞く夜長

梅雨明けが誰より気になるカモメール

日焼けより男の視線誘う肌

この日だけ着せ替え人形新成人

隣人愛復活させた大地震

大ナマズ自衛隊を見直させ

トンビの輪  
お金がほしいお役人  
子供より親がはりきる運動会  
美の追求どこまで下がる週刊誌  
ダービーの馬より早いわが財布  
髪の毛と共に減り行く脳細胞  
連休でなお重くなる五月病  
脈あるか握ってみたい彼女の手  
税金を使うなといひ無駄遣い

齡よりも卒業早い現代っ娘

いい加減大人になってよ政治家さん

ウソとボロつくろえば又馬脚あしが出る

副作用一番怖いハナグスリ

居眠りもできぬ国会春嵐

パソコンもインターネットも色とカネ

乱開発隠す地球の雪化粧

お年玉当たたらぬ賀状身を縮め

ボーナスが飛んで出て行く暮れ正月

おサツより小銭ほしがる幼い子

新鮮味隠し味だと新政権

師でなくも走りたくなる十二月

政治家の健康害するカネと酒

世の中は善意同居のやじろべえ

膝小僧抱いて独りの秋夜寒

善悪の見境つかぬ政治屋さん

健康な時に健康気にとめず

新成人数えて票の皮算用

花だより非喜こもごもの受験生

冬將軍我がフトコロに居座れり

大寒に超が付きそうなこの景気

ボーナスも減らされ頼りは暮れのクジ

神経痛病んで問われる空模様

高齢化米寿、白寿は当り前

節分のオニを追いかけて父が逝く

春の陽が景気と政治に差すはいつ

寒の雨春を育てて沁みていく

スタミナの捌ヶ口探す新成人

フトコロも冬眠したいこの世は

今年こそ決意三日で明日がある

財政難知らぬが仏のプール金

忘年会嫌な事だけ忘れたい

愛子様ブームで夜がせわしなく  
リストラの大波小波絶え間なく

情報に井戸端会議加工され

公金を私物する役人ヒト不景気知らず

H2A成功しても浮かぬ顔

熱帯夜ハワイかグアムの夢を見る

暑気払い何度やっても猛暑去らず

梅雨空は紫陽花色に七変化

政治家に求めて見たい脱世俗

鯉のぼり景気一緒に持ち上げて

高支持率選挙までさと負け惜しみ

携帯を持って並んでEメール

試供品効いてちよっぴり幸せ感

お試しでやみつきになる鼻薬

不景気に切り餅までも薄っぺら

お中元ノシ貼り替えてお歳暮に

年の暮れツケ馬だけが威勢よく

ふところを冷さく照らす冬の月

少子化に齒止め力かるかミレニアム

帯とけばガングロ厚底新成人

嫁不足心配顔のトキ優優

忍び込み昔土足で今指の先

寝ておれぬ定数削減解散風

一歩ずつ老いを感じる忘れ坂

# 竹前錦太作品集



故人  
竹  
前  
錦  
雄

秋祭り朝から花火ドカンドン

節分で天下泰平豆をまく

今朝の道ツルツルてんの寺参り

今日も又マレット美人に会いに行く

佐渡汽船滑らかに走る夕日かな

救急車まづ看護婦が脈を取る

マレットゴルフいつもの重役おいでたぞ

身障の日ささやかなれど贈り物

満水のダム見に行くと孫はしゃぐ

老の趣味ひょうたん作りに精を出す

まご達が暑い夏休みまっている

土山のモグラの穴のゴルフ場

生ビール飲放題に腹ポソポソ

アマリリス俺の熱意が見事咲き

風邪を引くくるしかったぞ此の冬は

ふらふらに暑さでまいった富士登山

暑いなあやはり夏にはひや麦だ

満開のコスモスで村へ客を呼び

マレットに精出す今日の青い空

景色よく金も手頃でいい貸家

マレットで六位が五位とまだ若い

奥山田紅葉の名所見つけたり

今に見ろ年をとったら忘れるよ

盆栽家ほめ合っている秋の午後

来る人も車も早い年の暮れ

カゼ引いて正月三日無駄に過ぎ

初詣で孫の受験に願ひかけ

福袋いらぬ物まで押し込まれ

初すべり重ねた年令が腰へ来る

わが家では女房安全で豆をまく

大雪にマレットゴルフ食われたり

マレットの残雪きいて今日もお茶

大地震ドシンガラガラ世を変へる

還曆に孫のお酌で踊り出す

春が来てマレットゴルフ混んで来た

今日か明日クジャクのサボテン咲きだすぞ

御遍路に二人同行南無大師

日焼けしてマレットゴルフの酒宴かな

此の暑さ汗がぼたぼたマレットゴルフ

今年又益々さかんマレットゴルフ

月掛けの貯金増す度エビス顔

名月にこんなにかわゆい虫の声

柿の実が枝が折れがびっしりと

七五三皆んな此のような美人たれ

残り花びっしり泊る秋の蝶

栄えたねよくもこんなにマレゴルフ

新年の光輝く初日の出

すごす夜年越し元旦子や孫と

春が来てマレットゴルフ出来ますぞ

福寿草庭の片すみ花が咲く

家の猫隣りの太郎と深い中

春が来て植木並べるたのしさよ

今年こそひょうたん並べ冬樂し

# 塚原明香作品集



塚原明子

バスツアー谷間に響びく水の音

御開帳回向柱へ願いこめ

真夏のインフルエンザ生き地ごく

この国はさぎとわびとで年明ける

墓参り先祖くようの家族連れ

核の空若きし散った兵士達

母の名を涙で探す墓参り

家賃安く気楽に暮らす安堵感

夜桜に浮かれて友と飲み明かす

若い気で鏡の前でみがきかけ

朝採りが初物となるお裾分け

声交わす杖つく二人散歩道

拭く汗が冷やしビールにいやされる

のき下で見事色見せる菊の花

空青く孫と野原でピクニック

雪が無く客足の無いスキー場

春解けの水にふくらむ露のとう

鳥たちも日差しを貰いはしゃいでる

台風は財さん命うばいさる

秋刀魚焼く煙で火事さわぎ

続出の各地病人暑い夏

夏祭り子供みこしでのびのびと

曇り空友と電話で語り合う

となり同士見栄張り続け日がくれる

一人持つ友の電話に悩み消え

大雨に沈む列島生き地獄

のびのびと子供が遊ぶ夏休み

かかしさんせきにんはたしかたおろし

古希むかえ寒さきびしく身にしみる

信じ合う友うらぎられそっぽむく

愛犬と杖付きながらリハビリと

ひざまくら母にだかれたぬくもりを

猛烈な台風ひがいつ続出と

天下り無駄な税金食い散らす

メタボリス食欲の秋じゃまする

秋の園しづかにせまる虫の声

この夏は海なん続き命とり

枕並べ話は尽きぬ長い夜

汗流すりハビリ済んだ茶の旨さ

おんだんか地球の回りよごれてる

春の鳥のんびり出来ぬ餌探し

せがまれて決断できず揺れる恋

花見酒夫婦きずな深くなる

お散歩で光った杖の老夫婦

寒空に胸もふくらむ万歩計

久し振り川柳仲間語り合う

御神渡り激しく燃える恋心

不況風暮れ忙しく足とめる

家まずし友の宿での旅行気分

菊の花無事にはたして冬ごもり

のみ明かす友と再会秋祭り

酒の旨さ割り勘で飲む忘年会

のんびりと明日に賭けてする読書

台風が日本列島狂わせる

通院もりハビリですと元気出す

いつまでも笑い絶えないいい暮らし

老夫婦仲良く堪えた恵比須顔

亡き夫の写真を見上げ手を合わす

川柳の仲間皆な良き友達で

無駄使いぜい金どこえ流れてる

ホドホドに家庭えんまんしり引かれ

給付金連休までに間に合わず

大地しん天災なのか地ごく絵図

不況波生き物達もえさ求め

自民党長老達頑張りて

懐かしい金魚掬いの夜店の灯

河川敷花火で染める客の顔

民主党旅行気分の鳩そうり

春の風冷たく揺れる猫柳

寒空に気ばかり急いで春を待つ

温泉でのんびりほぐす老夫婦

子育てで賑やかにとぶ蜂の群れ

星空に願いをこめて手を合わす  
散歩道馴染みの友と語り合う  
広場にもペットが遊ぶ憩いの場  
逃げ足に竜巻の渦吹き上げる  
天災に地震列島乗るこわさ  
懐かしいほおづき眺め夏しのぐ  
バスの旅食欲進むそばの里  
若者が路頭に迷う職探し

卒業生それぞれの道進み行く

老いてなほみがきかけての若がえり

山登り山菜とりで足急ぐ

年金天引き国は生き残り

新社員不安だいての入社式

道歩き互い杖付き声交わす

縁起物家族でのぞく福袋

大掃除するほどに出るごみの山

満天にダイヤのような星の屑

無理してる体を泣かすダイエツト

雲切れ間わずかな日差し顔見せる

雨上がりのびのび生きるかたつむり

孫娘晴れて涙のひろうえん

子供達おみあげ持ってわがやへと

梅雨晴間すがた見せるかたつむり

万歩計春風受けて歩り出す

老夫婦桜の下で語り合う

道の駅山菜圃み憩う顔

春が来て明日にむかいはつらつと

びっくりの騒ぎで過ごす旅の宿

寒空に今日も歩ける万歩計

雨うたれ農家野菜がいきいきと

鳥の声求めて歩く山の道

疲れから信号待ちで居眠りを

風雪の寒さに耐えた路のとう

残暑です蟬みも疲れて姿消す

夏休み母が待ってる里帰り

ゲリラ雨涙で読んだ被害記事

人並みに外へ出たいとかたつむり

山登り足弾ませてピクニック

遊園地賑わい見せるゴールデン

縁側で居眠り中の老夫婦

お互いに出会い喜び立ち話

春園に山菜採りの足弾む

# 永田きみお作品集



故人 永田公男

停戦の祈りへ飛び交うハト数羽  
水増しの予算で哀しい盗み酒  
人脈をたどるとよくも狐狸揃う  
目鼻立誰に似たのかケチくさい  
居眠りが上手まぶしい金バツチ  
厚氷の下にあなたの考査表  
ずっしりと安保を担い島きしむ  
この男いくつつ抓ると目を開く

黙秘権真一文字の石地蔵

愚痴一つ言わせて貰うコップ酒

ペンダコがずきんとうずく和解案

から空で幸せ号がいま発車

祝宴でささやく候補の票の数

風みどり福祉試算を書き上げる

不景気に並木の落葉語りかけ

引き際はキレイと肩を叩かれる

人生訓聞かせてくれた嘘三つ

証文をはさみ疑惑の目が光り

直すまい無罪と記す誤植文字

垣根越し傲然とする核兵器

反乱の掌に一つのきりの握り飯

草いきれ無名戦士の関の声

臨界に終末時計また動く

岩田帯締めて貴方へ向き直り

鼻ずらをなであげ通る福祉案

厚化粧してストーカー待つ今宵

研ぎすましツメ先十本おれに向く

妥協してメガネの裏を拭き清め

よい返事きそうだ西が晴れている

いい日和やじも飛ばない総辞職

永田町ぬけると見える青い空

一つぶの涙に君が大うつし

新知事誕生あくまで青い空

さあ世紀末裸ばかりの週刊誌

逃げきって高笑いする不審船

薄化粧手術受けるといふ元氣

タツプりと卒寿ながらも酒たばこ

小用にみやげ屋前でバス止り

屋根の草バチバチ天に向いて咲く

茶柱が立ち裏口のベルが鳴る

亭の障子に政敵の影燃える

なんとまあこんな長屋に美女ばかり

いい日和やじも飛ばない総辞職

誤字までも黒字で決まる決算書

食いすぎてどさりと生生また昼寝

平和通り安売りの声満ち満ちる

一日一善古傷がまたかゆい

春うららクローン牛もいい鼻

利子ゼロが続いて錆びる金かぶと

ウグイスの声も低音ゼロ金利

美女二人さっと飲み干すコップ酒

産声が上がリ一棟照り映る

指切りし針千本を飲むつもり

大臣の浮気がバレた昼下がりに

誤字あるが明日の公約よく書けた

温暖化浮気の虫が動き出し

# 永田天真作品集



故人 永田 穰 吉

不恰好柳の下のどじょう飛び

君子でも木石ならず艶好み

返り咲き庭に移して花見する

各時代栄枯見据えた天守閣

過疎地でも秋桜植えりゾート地

店賭けた五割バーゲン客は無し

気晴らしに上司喜ぶ割勘で

踏まれても夏雑草のしたたかさ

金策は草の根分けて探し出す

下戸でさえビヤホール近くビール党

相愛で近い結婚二人仲

頬すり合わせ君と一緒に新世紀

ライバルへひとみの奥が火花する

玉手箱拾った夢を見たという

ダイエツトピアス光らせ闊歩する

平成っ子見合いの席はパリモード

袖の下あたたからしい指輪買う

駄々っ子もおとぎ話しにすやすやと

井戸端のうわさ話しに花が咲き

ゆりかごの空中散歩は夢の中

国会空転居眠り上手になってくる

料亭の指切り密議口亡ぶ

年頃は白魚指に照るダイヤ

君子でもヌード写真隠し持ち

汗流し家運も栄え家宝も

恋文に使った英語が気にかかり

春うらら障子の日のぬくもりさ

巻紙に筆あとうれし彼女から

バーゲンのくじ一等にっこりと家急ぐ

缶ビール明治の元気たくわへる

浅草の参詣みやげ票おこし

手土産は産地直送山の幸

恋みのり父を知らない子が生まれ  
過疎ながら山紫水明わが生家

つり橋もみんなで渡れば怖くない

トツプ記事首相のしぶい顔写真

春近い美女美男とも職さがし

食いあきて四つに折ったごぜん箸

腹一杯食べたカラスはただ無言

かたい帯お国なまりのかぞえ歌

お太鼓になって娘らしくなり

メロドラマ作者の事を種にする

ドラマでは奇妙事件人気上げ

奉公し里への土産赤ん坊

上京し子への土産は里の幸

大望はみんなかなえる夢の中

国会のリストラ自己はどうなるの

消費しろ遊べで国債積み上げる

出かせぎの孤独をいやす長電話

止く道平坦ならず踏みしめて

告白は面々のべる長電話

逢引は財布をもって歩きだす

就職で歩幅大きく人生へ

日本国表は平和守るだけ

労働歌低く赤旗色あせる

紛争は旗をまさぐるスパイ戦

# 西沢平凡子作品集



故人  
西沢隼人

春泥を背負って元気な一年生

葉松を静かに見てる車椅子

小説を斜めに読んであと星空

前言を変えてバツチが錆び始め

捨てるもの一つもないと玩具箱

診察は順調と言われ夢を足し

美しく咲いて野菊は神秘なり

逆立ちをピタリと止めて平均台

水不足神も仏も耳がない

熱帯夜不貞寝のまま夜が明ける

スポーツをして年令をかみしめる

秋の日を日毎追われて枯葉踏む

合格の発表を出て広い空

泣きそうな空を雷せき立てる

仲人はとても手頃とほめている

億の金存じませんで通る平和

ほんとうの味方小声で注意する

健忘症用済んでから思い出し

政策は変わらず首をすげ変える

太陽は黒い汗にも赤く射<sup>い</sup>る

万才をバカ笑いしてたら俺のこと

ボタン雪か村を静かに落ちつかせ

新しい日記は二日へ溢れてる

新入社四角になってごあいさつ

当然のように宝くじ外れ

吹雪く日の炬燵が寒いボロ障子

着ぶくれて老人ますます丸くいる

街灯は恋の裏道知っている

裏金は光をさけて袖の下

人間の秘密は人間が破る

家族旅行母が留守居を買って出る

くすりでは治らぬ腰へくすり貼る

共稼ぎ犬の散歩も家事のうち

出来具合猿は一日早く知り

重ね着をだんだん脱いですみれ咲く

爺ちゃんが読んでと絵本と眼鏡来る

粗大ごみがゴミを掃いてる街の朝

ヨボヨボにとしを聞いたら同じ年

禁煙のお宅で灰皿出て来ない

負けて飲み勝ってまた飲む草野球

戦争に耐えた大正が粗大ゴミ

間違ってもお経喜こばれ

一片の菓子へ犬の尾ちぎりそう

酒のない国へいきたい胃の痛み

村のボス満期間近で腰低い

スーパ―に四季雑居して日本の味がない

偉人と狂人とここで分れた卒業式

母器用草刈鎌でりんご剥く

わい談をちよっぴり混ぜていい講師  
たばこ銭どこから出るか足りている

母打てば不思議とうまいそばの味

クラス会地獄の順を笑い合い

左話半分でバスに連れせかれ

松澤凡太作品集



松  
澤  
豊太郎

親の夢いっぱい詰めてランドセル

雪ダルマ一人残して子等帰る

農の汗無駄にはならぬ一等米

薪積んで石油高値は他人事

座るにも立つにもヨイシヨの年となり

知事室のガラス不在で結晶す

閑古鳥今日も泣いてる定期バス

味だけを覚えて嫁が離婚する

極樂の出口停滞長寿国

マナ板はいらぬ鉄で食事する

田植機の隅の補植くは妻の役

一軒の雑菓や村を守ってる

体重計踏む位置変へて針を見る

台風と地震で列島傷だらけ

リストラの跡にロボット居座って

御柱木遣の声に神も舞ふ

バス下りてあとが重たい土産ぶろ

古里の言葉飾らぬ友集う

長生きに頼む年金先細り

孫生まれ無口の家には笑ひ出る

ネクタイを締めた＼シャツ今野良着

貰い風呂絶えて淋しい両隣

平凡に生きて賞罰ない女

跡継ぎが出来たと泳ぐ鯉幟

お日様の愛で踊っている稲穂

散票でバツチ付けてる至福者

帽子飛び風の子手を上げ追って行く

夏冬も地下道ホテルとホームレス

天引きで保険料とはうますぎる

カタカナの新語が増えて広辞苑

青虫が食べる野菜に毒はなし

国会の先生減らし税下げろ

七五三写真に納まる貸衣装

借家から持家へ越して皆笑顔

ダンボール俺の住屋とホームレス

飽食の舌にも季節の味は知る

母さんの味が待ってる里帰り

真っ白なハンカチに沁む喪の涙

国策に沿って無念の青田刈る

還暦会色欲話で盛り上がる

まな板の音と夕餉の匂い来る

田の主にどこか似ている案山子立ち

減反で居るところ無いと蛙鳴き

遺産分ついてる人が皆悪い

二世帯の家を建てたら嫁離婚

結願をして巡礼の草鞋めぐ

海草も一品そえてがん予防

この寒さのれんに集ふ赤い顔

手造りを下げて笑ひの友が来る

上座より下座で飲めるよ祝ひ酒

若も樂も越して八十路を今日生きる

宝クジ当った夢見てはね起きた

暑氣拂ひ無口の女が芸をする

新緑の奥でウグイス恋してる

ホームレス地下道みんな髭男

川岸の桜万開さあ花見

裸婦像が彼女に似てて眼鏡拭く

解禁をされて銃声峽に鳴る

寸足ず短い浴衣借りる宿

子の御輿し月も明るい村祭り

何処へ打つ二百海里の杭浮ぶ

過疎になり御輿りヤカーで引かれてる

呼び水を入れてポンプが廻り出す

きうり馬先祖は乗って盆に来る

未来の芽輝き負ってるランドセル

蛇口から今日一日が始動する

知恩院鶯張りに耳澄ます

暖冬で熊も安眠できず出る

いぼ釣って鯛を逃がして苦笑い

この寿司屋鮪が薄くシヤリ太い

流鏑馬が諏訪の祭りを盛り上げる

アルコール欲しいか鳴いてる腹の虫

妻の留守今宵晩酌柿の種

小卒の社長へ大卒勤めてる

海水でぶかぶか浮ぶ湯っ蔵んど

中国は総理相手怒ってる

迎へる手送る手涙をそっと拭き

小卒で天下握った角栄どん

雪帽子深く被って辻地蔵

平服で来いと金婚の友招く

おくやみの言葉故人に花持たせ

たくましく育てと祝ふ鯉幟り

春の雨小踊りしてゐる種袋

薬だと熱爛付けて二合飲む

縁あって連れ添う二人ダイヤ婚

縄のれん隣りの縁で友が出来

川柳を始めて辞書と縁になり

宇宙から笑顔を送る若田さん

お点前がすんで安堵の膝くずす

孫の職決って家族安堵する

一寸と手を上げて失礼前御免

天幕の出店並んで花見客

モンゴルへ錦を飾って朝青龍

古時計我が家の歴史刻んでる

よくもまあ装姿を知ってる週刊誌

軽トラへもみじを張って野良へ出る

転んでは駄目よと杖に諭される  
あと五分待てば半額スーパ―箸

換気扇隣りの夕餉知らせてる

花筏オデン肴にコップ酒

青い目と茶髪賑わう観光地

税金で食べる官僚多すぎる

地下足袋を借りて手伝う連休日

十二人住んだ母屋に今二人

# 三井小菊作品集



三井  
きく子

地球温エコで止めたい主婦の知恵

温暖化どこか狂って風暑し

天降りいつもの慣れで甘い汁

大自然どこかが狂って温暖化

政権交代老の頭も切り替える

政治家様どうしてくれるこの不況

国会のネジリやゝこし系の先

税金に打ちのめされそな預金額

取り締まる筈の立場が悪をする  
腹八分守る気構えつい忘れ

給付金票の影が見え隠れ

春が来て爺婆ようやく腰を上げ

案ずれど子供は夢を追いたがる

惜しまれて散り行く花に想いよせ

目がさめて体からだの調子確かめる

秋が来て春とは違う足運び

物忘れくり返えつゝ余生生き

齡重ね優しさの手につい甘え

不景氣に負けじと女も強く生き

優しさの影で女は強く生き

八十路坂まだくゝ頑張る骨造り

健康教室薄紅引いていそくゝと

古カバン旅行の匂いまだ消えず

赤い糸硬い結びも軽く切れ

野沢菜の風物葉洗い影ひそめ

日短は老の体を急がせる

高校野球勝っても負けても涙して

サミットで地球暖だん止めれるか

マイバツク持ってエコ運動協力し

選挙戦勝を信じて握手する

選挙時はこぼれる程の笑をみせ

宣誓じ見身内の子故に涙して

痛いところつかれて慌てる苦笑い  
バラ園に負けじと女性華やいで  
どこの場も笑い持つ人福が来る  
いつの世も正道通らぬ茨道いばら

政権交代明るい期待で生きてみる

掛け違い補正しながら五十余年

我わが人生迷いもありて八十路坂

老いてなほ人の情に沁みる日々ひび

この余生大事にしたい事在りて  
大好物柿にパワーを貰い受け  
想い出の記憶を探る若い日々  
転倒予防今日も頑張る筋トレに  
知らぬ家夕立止むまで軒を借り  
半島を本土に繋げる長い橋  
回復を願う庶民のうなり声  
回復の兆し足踏み何時動く

感激を残してくれたヒーロー達たち

朗ほろらかに暮くらす人間ひと幸ありて

坂道を越えて人間丸くなる

黙々と取り組む姿に光あれ

発表会練習重ねまだ不安

春彼岸やさしい風を連れてくる

我が子にはこの世の道を植えつけて

キツチンは私の城と今日も立ち

人生の暮し真中良しとする

代々の農地守りて今日も生き

過疎農家愛情つめて子に送る

あわ踊おどりその氣にさせる足運び

初会合知人現われホツトする

検診で異状なし言われて安堵する

朝夕の涼しさ連れて秋が来る

秋風に乗ってトンボはゆうくと

老いてまだ今日も頑張る主婦業に  
温度計異常気象ではね上り  
待ちわびた夕立来たりて生き返る  
盆過ぎてどこかわびしい虫の声  
芸上手何んでもこなす人が居り  
齡重ね話術上手も手前みそ  
免許なし黙々歩く近道を  
飽食は腫らむ腹に病あり

甘い話ついにのせられ後地獄

三回もオペに勝ち抜くこの手指

生かされて今日も元気で趣味の会

忘れ物取りに行っても用足りず

味気ない用件のみの走り書き

風鈴の音色情緒をかり立てる

生涯を頑張る文字に励まされ

昔日せきじつの想せきじつい重なる並木路

趣味三ツ抱いて元氣で古希となる

甘い汁吸った株ほど今は痩せ

趣味を持ちその場を助けて株上がり

好景氣早く来いと招猫まねきねこ

町並みの繁盛はんじょう記す乗車駅

過疎かその村行く先々の無人駅

居心地いごこちのよい椅子程縁薄し

締めた筈はずたるんだ腹は戻らない

楚そ々そくさと師走しわすの仕事締めくくり

年の瀬にボーナス名ばかり不況風

新年そなに備えてカレンダー重ね掛け

深々と被かぶる帽子は寒さ除け

秋祭り若者おらず元若衆

夕暮れに祭まつり囃子ばやしの笛響ひびき

八十路坂元氣保つ紅を引き

同じ趣味持つも同志意気上り

今日も又氣の合う仲間笑い合い

石地蔵黙って何かを教える

咲く花も人もそれぐ／＼色ありて

最後まで頑張る氣持ち腹で決め

天気予報信じて晴着びっしょ濡れ

希望の旅夢のせ走る富士の裾

大雪の寒さ身にしむ老の坂

生涯をかみしめ今日も手を合わせ

不景氣の風に押されて舞う枯葉

温暖化自然を壊し命取り

寒空に二つの影が寄り合って

齢老いて主の存在重く知り

元旦に雑煮祝える有難さ

今年こそ光って生きたい希望もち

願い事写経に託して筆をとり

時によりえびす顔も角が出る

的ありてねらう氣持に水さされ

人前で知らん振りする深い仲

メロドラマ先を知りつゝ吸い込まれ

奄みこし乗ってる女のいなせ肌

お祭で買ったフーセン空に逃げ

石ころの上に散り行く紅の色

眉まゆ引いて気分軽やか旅に立つ

お人良し信じた人に裏切られ

気は若いついて行けない齡重し

紅葉狩り錦うるわし遠い日々

赤子の手もみじのような動き見せ

彼岸晴墓石なせて詫わびを言う

不景氣を聞く度老婆も身が痛む

草むらの虫の声ききて夏惜しむ

昨日まで薄着の肌へ今朝は秋

工事中腰のあたりに命綱

大雪に耐へたものだけ実を結び

横殴り豪雪止まぬ空にら睨む

廻覧板昔は隣と結び合い

夏本番若者自慢の肌を見せ

又もかよ暗いニユース切間なし

小よりも大で生きたいこの人生

腹割って話せる友と泣き笑い

七夕にゆかた姿がよく似合い

# 山上雲海作品集



山上邦茂

福ダルマ何にも授けずドンドの火  
願ダルマウインクの儘年始め

きらいでも二人三脚気を合わせ

青田刈リストラ案山子見捨てられ

確実に儲かりますわ売る話術

実印が鮮やか過ぎる借用書

青田刈昔採用今植えもせず

秋日落ち早々灯る赤灯籠

秋刀魚焼くダイオキシンの匂いの味

米の木を知らぬ農家の出孫くる

屋部町名改め名医院構えかま

天地人一体となって稲稔る

実印が鮮やか過ぎる借用書

恵まれた老いは通院の友づくり

鴨と見たママが名刺ソツトくれ

彼アツシー結婚するのは別の彼

選拳戦遠縁ルーツ掘り起こし

全身のいずこも疼く春彼岸

老い予報疼き安らぐ今日は晴れ

憎々の嫁から可愛々々の子が生まれ

不況暮銀行シャツター鈍く開き

幸せは自宅で除夜の鐘数え

好物のおやき昔は主食です

バブル期が岩戸の中で化けデフレ

村が市に斜畑だけは元の村

村が市にイメージ良くなり嫁さがし

ペイオフは虎の子猫にさせられる

銀行が皿金モドキ傾斜中

越県合併老いは山に根付いてる

川柳会余得社会学の隠し味

失政の対応弱者に消費税

三位一体失政に蝕ばまれ

反抗期親の歩んだ道逸れる

悪代官今は丁髷<sup>ちよんまげ</sup>取っただけ

披露宴祝う先輩キス強いる

戦争の晩婚労り睦ましい

赤絨毯永く歩めば朱に染まる

旅土産開けば製造おらが町

おばあちゃん小遣いの他無理やめて

既製品似合うスタイル感謝する

良い出合手繰れば結び目赤い糸  
地震予知どちらが当たる八卦報

結婚の式後のこととう済んだ

姥桜散らすか散るか苦悶中

姥桜生身の美貌びぼう散り惜み

肥えた口経済学とは嘔み合わず

リストラに大事な婚期逃げていく

嫌な人日傘で隠し歩を早め

好きな人逢えば日傘照れ廻し

見え隠れ島が大事な漁業権

食べて寝て里の祭りのお重詰め

祝日をやたら拵え泣く臨時

負の遺産天下分け目の如何様給付

給付金後世に贈る負の遺産

大臣の指名そむ叛かぬ顔連ね

お手盛りは一升マスの仕切替え

給付金生きいきした日二、三日

両党が舌戦気付く無駄遣い

天引きで高齢完納古い模範

公約に雁字搦めの迷い箸

ささやかな幸せ夕餉に揃う膳

上役の欠伸に部下は手を休め

トンネルを抜けたらそこは鼠取り

上役に顔立て見合だけ受ける

改革に自分の首はつなぎ止め

蝸牛足跡確と書き記す

美声酔い音痴に拍手バスの旅

大寒も負けるリストウ背が寒い

満ち足りた夫婦の絆無風帯

新政権期待と懸念渦の中

無駄無くせ歳費削るとは言わず

負の遺産背負わせ政り給付する

不景氣が挨拶となる合言葉

温暖化こんな大雪なぜ降るの

少年の不良化教師に皆擦りなす

契約書不利な定款極細字

合併の恵み余得の印刷屋

越県の合併老いは山に住み

蒔かぬ種生えるは帰化の強い草

ズルズルと溝に落ち込む深情け

顔つなぎ先ず鼻ぐすり嗅がされる

顔艶を褒め合う年頃クラス会

終駅で訛り同志の帰省汽車

追い越せど前に車果し無く

選挙戦ダルマ開眼札治療

ときめきに残る若さくすぐられ

無理するな口だけ息子クラブ振り

消費税老いの踏台ぐらつくぞ

ご無沙汰を年賀に託し年明けける

飲食の後味直した味噌を嘗なめ

食欲に負けダイエツト振り出しに

石一つ投げて波紋を問う政り

餓鬼大将今じゃ祭りの総大将

欲控え歩幅狭め恙が無い

リストラに社長員数に加えられ

逢瀬闇足元に照らす恋螢

パチンコの余韻が財布空にする  
予報官余震有りうる逃げ場有り

億光年前の光り今届く

多数決連立毛並み逆毛立て

国会で吐かず地元で遠吠える

手打ちそば常食今は村おこし

天照神話の岩戸締め忘れ

尼脂粉漂よいに酔う寺男

# 渡辺と金作品集



渡  
辺  
元  
一

生め増やせそれ言う前に医者増やせ

借金は不仲の種と断られ

どの県も借金まみれ日本地図

高利貸し監視カメラで身を守り

貸切のバスでカラオケ初詣

食値上げ民のふところ悲鳴上げ

品格の二字が決まり手朝青龍

叩かれて文字を吐き出すキーボード

神頼み拍手を打つ受験生

一滴の水にも5パーの消費税

カラオケのセットに化けた道路税

山幾つ越えてしみじみ古希の膳

崖つぶちうまく舵かじとれガソリン税

姨捨か訳の分からぬ保険料

気まぐれな風が船頭花筏

新聞の最初に目が行く死亡欄

新鮮な我が家のキウリへそ曲がり

街おこしハツチ頑張る竜の里

七十五過ぎてまさかのデモ行進

札束を背負って引っ越す天下り

天引きは死の催促か保険庁

地球儀の島一つ消ゆ温暖化

被災地の泥と戦う自衛隊

食偽装嘘で始まる記者会見

逃げ出して月へ住みたい物価高

大臣の首据え変えて秋の陣

年寄りには財布代わりに連れ出され

団扇風孫の寝顔がほくそ笑む

風鈴の声軟らかし南部鉄

ゆめと散る星野ジャパンの金メダル

散歩するペアルックの老夫婦

婆ちゃんが乗って帰るの茄子の馬

顔が出て名前が出ない石頭

日曜日粗大ゴミとは腹が立つ

山間に白いジュータンそばの花

犬にまで手を振っていく選挙カー

公約は口先だけの絵空事

ばたんばたん不況風吹く商店街

練習で流した汗が今光る

医者通いやあお前もか同級生

金メダルなんも言えねえ男の涙

男です顔で笑って腹で泣く

タバコ吸い人の忠告煙に巻く

大不況いの一番に派遣切り

故郷のりんごまだかと子の電話

故郷のお国訛りで場が和む

麻生さん打ち出の小鍬ぶれています

大不況すがりつきたい神仏

嫁姑女の戦い墓場まで

生め増やせ女は機械ではありません

新婚の二人の年賀にあてられる

りハビリで頑張る友の年賀状

紅白に家族も分かれる大晦日

お年玉貰う時だけいい爺ちゃん

悪役が主役に化けた朝青龍

ぶらさがる絵馬も込み合う昨日今日

垣根越し隣の柿が家覗く

隣との境界線は猫の道

改革をして郵政は不動産屋

男でも女でもないニューハーフ

口喧嘩たまにはいいかボケ防止

大不況どこ吹く風の車窓富士

受験子のラストスパーク窓灯り

反対と言いつつ手が出る給付金

俺おれと言って捕まる詐欺男

検診の結果に安堵ついで一杯

インフルエンザ下火に安堵旅へ出る

縁遠いキャリアアウーマン賞味切れ

手招きで福を呼び込む縁起猫

石の上三年たったらはい解雇

勝つための嘘も方便マニフェスト

辛抱という木に花が咲くという

孫からのメールが届く「桜咲く」

新社員花見の陣取り初仕事

給付金老々介護にや雀の涙

隻腕せきわんの片割れが泣く石の下

顔のしわ年輪ですよと澄まし顔

偏食は親がお手本子が真似る

票を読む取らぬ狸の皮算用

すったもんだその一票がものを言う

笑わせて年寄りなごますボランテイヤ

惚け進みやることなすことお笑いだ

味噌汁をかけてさらさらエコ御飯まんま

風邪ばやりマスク様さま低い鼻

長老とかつがれて出る夏祭り

蟻が蟻背負って引っ越し炎天下

朝顔をゆかたに咲かせて孫娘

青大将衣干してる梅雨晴れ間

縫りつく権力という蜜の味

カッタカタはや雑す音頭に血が騒ぐ

後期高齢差別用語に腹が立つ

今日だけはメタボが主演へそ踊り

小泉チルド四年たったらただの人

民の風にバツチ飛ばされたただの人

ぬくぬくとおご誇る自・公に民の喝

先逝ったあいつ待ってる天の川

短冊に書いたお願い「惚けぬよう」

気をつけるサラ金という蟻地獄

イチローは如意棒のようにバット振る

忘年会羽目をはずして反省会

# 身体障害者デイサービス事業川柳班事業記録 (愛称：ぬくもり川柳)

概 要 年 月 日	期 間	講 師	概 要	班 長	副 班 長	会 計
身障協会北澤理事長立案立ち上げ			班員15名			
H6.4.1		西沢隼人 (号 平凡子)		山上邦茂 (号 雲海)		
}						
H7.7.5	1ヶ月2ヶ月		平凡子病い			三井きく子 (号 小菊)
H7.6～H8.3.31	10ヶ月	山上代行	〃 病床中	山上邦茂		
H8.4.1～H13.1.31	4年10ヶ月	永田公雄 (号 きみお)	きみお病い	山上邦茂		
H13.2～H13.3.31	2ヶ月	山上代行 (号 雲海)	班員13名	山上邦茂		
H13.4.1～H17.3.31	4ヶ月	山上邦茂	班員11名	浅沼春吉 (号 一花)	松沢豊太郎	
H6.4～H17.3までデイサービス川柳班を立ち上げて11年間						
名称=はつらつ生きがい事業						
H17.4.1～H21.9.30	4年6ヶ月	北澤二郎 (号 笑楽)	班員9名	松沢豊太郎 (号 凡太)		
H21.4～			班員8名	渡辺元一 (号 と金)		
H21.10～		再任 山上邦茂		兼田 勲 (号 いさお)		三井きく子 (号 小菊)

## あとがき

平成六年身障協会の北沢理事長さんから川柳の班を作らないかと話しが有り、何も知らない者ばかりだが、身障者の仲間に西沢平凡子さんが居られるので講師にお願ひし班長に山上雲海氏と決め『ぬくもり川柳班』として、四月から十月迄は夜七時から九時迄、第二金曜日、十一月から三月迄は午後一時から三時迄、第二金曜日と第四金曜日。場所は福祉会館の図書室にて。宿題二句、雑詠二句を互選してお茶を呑みながら、雑談をし、まずはボケ防止のつもりで発会した。

此の間、講師の西沢平凡子・永田きみお先生、仲間では竹前錦太・永田天真さんが他界された。御冥福をお祈り申し上げます。

理事長も北沢二郎、関野一、山岸守さんとかわられ、仲間も平均年令八十余才となり丁度十五年になるので記念誌を発刊する事になった。山岸理事長さんには御あいさつを、又協会からは多分な御祝儀を頂き、これ又、厚く御礼を申し上げます。

終りに、この発刊に多大な協力を戴いたわらしべさんに心からなる御礼を申し上げ、あとがきとさせて戴きます。

(凡 太)

※なお、皆様の句の掲載順は、本名の姓を五十音順に並べました。御了承ください。

---

創立十五周年記念 **ぬくもりの川柳作品抄**

発行：平成22年3月31日

☆

編 集

須坂市身体障害者福祉協会川柳班

**ぬくもりの川柳班**

事務局

〒382-0076 須坂市馬場町1218番地

(須坂市福祉会館内)

☎(026)248-8887

印 刷

ワークハウス わらしべ

---